



子どもは親の言うことを聞く存在か

を問い直すこと(後編)

こどものこころの相談室 がじゅまる 臨床心理士 寺崎 真一郎

子育てで困っていると相談があることの多くは、「子どもが言うことを聞かない」とか、「子どもが親の指示通り動かない」というものと思います。今回は、「子どもと親の関係性」について、一緒に考えてみましょう。

※今回の内容は後編です。滝上町ホームページ内子育てセミナーの前編をご覧くださいから、後編をご覧くださいと幸いです。

※事例については、ご本人の許可をいただき、プライバシー保護のため内容を損なわない程度に改変しておりますこと、どうかご容赦ください。

サトルが4歳になる少し前だったと思います。サトルのお母さんから、私の元に「また話を聞いてもらえないか」というご連絡がありました。

サトルのお母さんは、とても疲れた表情で相談室にやってきました。

「サトルに診断がついて、私の責任であの子が障害になったのではないということころまでは良かった。そのことで気持ちが救われたんです。それから色々な機関でお世話にもなりました、ペアレントトレーニングと言って、発達障害の子どもに対して適切な養育ができるように、私自身、それも一生懸命に取り組みました・・・でも・・・」と言いかけて、下をうつむいたまま、泣き始めてしまいました。



言葉を交わすことがなく流れる沈黙の時間に、母の心の苦しさが重く伝わってくるようでした。話を聴いていくと、ペアレントトレーニングでご褒美を与えたり、罰を与えたりもしたけれど、言うことを聞いてくれない、母も色々とサトルのために頑張ってきたけれど、相変わらず言うことを聞いてくれない、と、母は憔悴しきっているようでした。

私から、「お母さん、もしよろしければ、ここで定期的にお子さんのことについて、どうしていったらいいかをお話を聞かせていただいて、一緒に考えて行きませんか」と提案し、それから定期的に、お母さんとの面談が再開しました。

面接開始から2ヶ月ほどして、お父さんも一緒にやってきました。お父さんはお母さんの後ろに隠れるようにして、どこか後ろめたさを感じるように部屋に入ってきました。私からお母さんにお父さんの来室を提案していたこともあり、お母さんがお父さんを誘い、参加されました。

お父さんは「いや、僕も、子どもにどう接したらいいのかわからんもんで。僕の父親も家にはおらん人でした。だから父親が子どもにどうやって関わったらいいのかわからなかった。子育ては母親がするものだって思っていたんです」とたどたどしくお話してくださいました。

その話を横で「そうだったんだ」と驚くお母さんの姿がありました。そしてお母さんも「私もそうで、最近あることを思い出して。私が小さい頃に自分の母親があれをしなさい、これをしなさいと言ってくることにに対して腹が立っていたのを思い出したんですよ…今になって」と笑いました。



それから夏休みに入り、しばらく面接をお休みした後の面談で、お母さんは夏休みのある出来事を話してくれました。

「家の中が散らかっていて、今までだったら、サトルに片づけなさい！と怒鳴っていただけだったんですけど。」といい、「私、ちょっと閃いて、一緒にお片付けごっこをやろうと言ってみたんですよ」と嬉しそうに話し始めました。ちょうどお父さんもお休みで家にいたようで、お父さんとお母さんとサトルと3人で、お片付けごっこをしたというのです。

「それで、どうなったんですか？」と私が聞くと、お母さんはにっこり笑って「聞いてください。」と一言いい、「今まで片付けられなかったサトルが、一生懸命に片付けたんです！…その姿を見て、私があの子を自分の思い通りに動かそうとし過ぎていたんじゃないかって思ったんです」と続けました。

その隣でお父さんは、「サトルは一人の人間だから、自分の意思があって。そういうことを僕たちはどこか忘れていたかもしれない」と言葉を添えました。

河合(2001)は Q&A こころの子育ての中で、「現代は、親が子どもをコントロールできる、と思いきすぎているんじゃないでしょうか。思うようになることが増えすぎて、みんな錯覚を起こしているんですね。何もかも思い通りに動かすやつが強いとかえらいとか思っている。そういう傾向は、現代社会ではすごく強いと思いますけど。」と述べています。



親が子どもをコントロールしようとするほど、子どもはそこから抵抗し、親の支配から逃れようと、どんどん逸脱した行動をエスカレートさせることがあります。

しかし、親が子どもを信じ、温かい眼差しで成長を見守る姿勢で居続けることができれば、子どもはその温かさを取り込んで、より遅しく成長していくのではないでしょうか。

今回のテーマは、「子どもは親の言うことを聞く存在かを問い直すこと」でした。サトルのケースをご覧いただきましたが、面談の最後にご両親が言っていたように、子育てでは、子どもをコントロールしようとしすぎないことが大切かもしれません。

また、お一人で子育ての悩みを抱えるのではなく、家族や友人、職場の方、身近な行政機関などにご相談してみることも大切です。



私もスクールカウンセラーとして、毎月 1 回、滝上町内のこども園、小中学校を訪問し、お子さん・親御さんとお話しする時間を設けています。

ご相談を希望される方は、お子さんの通う滝上町内のこども園、小中学校または教育委員会へお問い合わせください。

○参考文献

河合隼雄 Q &A こころの子育て 2001 朝日新聞出版

